

資料 4

「歯学教育の改善・充実に関する
調査研究協力者会議」(第2回)

H20.8.29

歯科医師臨床研修の現状と課題

葛西一貴

日本大学松戸歯学部

臨床実習が形骸化した背景

臨床実習(臨床研修)への協力患者の減少

- 高齢患者, 有病患者の増加
- 患者意識の変化
- 開業医の増加とその臨床レベルの向上
- 受診行動とのギャップ

歯科医師臨床研修の目標

- ・ 歯科医療技術の高度化・専門化

ストレート方式による専門分野の研修が主流

基本的・総合的な歯科診療能力

- ・ 高齢化・疾病構造の変化

全身的な疾病を持った歯科疾患患者の増加

**口腔に関係した全身管理を含めた
健康回復・増進**

- ・ 患者の権利意識の向上・医療に対する不信の増大

歯科医師と患者との信頼関係の構築の重要性

**歯科医師としての人格の涵養
患者とのコミュニケーション**

新歯科医師臨床研修制度

複合研修方式が主流

管理型臨床研修施設 1施設 3ヶ月以上

(3ヶ月を超える期間については1ヶ月単位で連続しなくてもよい)

協力型臨床研修施設 1施設以上 各3ヶ月以上

- ・2か所以上の協力型臨床研修施設を回ることが可能に
- ・研修期間の設定が柔軟に

診療所も単独型・管理型臨床研修施設に

人員に関する基準

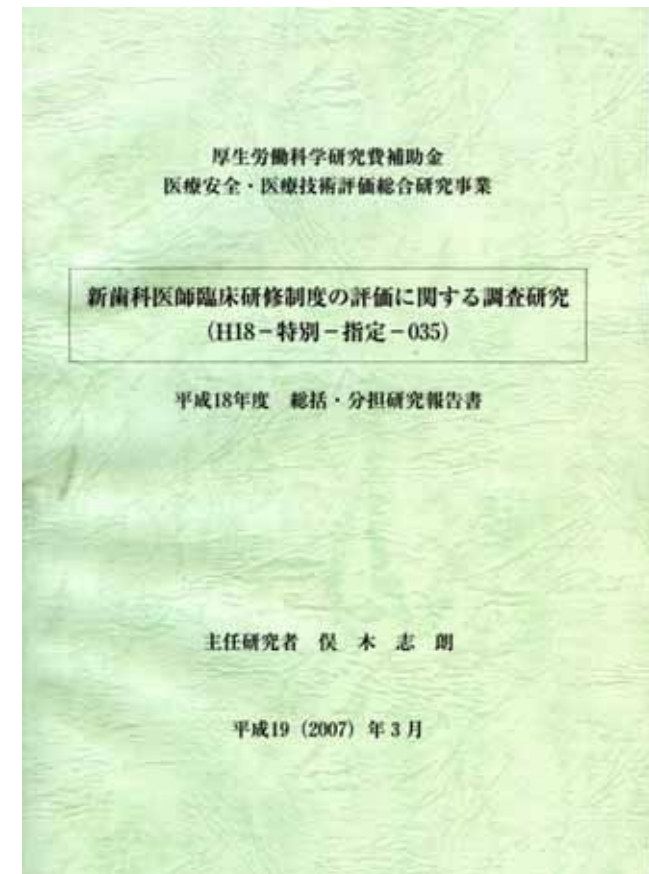
	単独型	管理型	協力型
常に勤務する歯科医師の 人員基準	3名以上	2名以上	2名以上
常勤の指導歯科医		1名以上必須	
歯科衛生士・看護師の 人員基準	常勤換算で、常に勤務する歯科医師と概 ね同数(歯科衛生士の配置:必須)		
研修歯科医の同時受入定員	指導歯科医数の2倍まで		
プログラム責任者の配置	義務	義務	管理型に配置

平成18・19年度 厚生労働科学特別研究事業

新歯科医師臨床研修制度の 研修内容・研修効果に関する調査研究

目的

新歯科医師臨床研修制度の初年度における研修内容・研修効果を調査・分析し、新制度の有効性を評価するとともに、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を収集する。



すべての研修を100%としたときの 研修内容の内訳

	座学	実習	見学	アシスト	自験	その他
研修歯科医	9 (9)	13 (11)	17 (17)	31 (29)	29 (32)	2 (2)
単独・管理型	10 (10)	23 (17)	15 (15)	21 (21)	30 (35)	1 (2)
協力型施設	10 (10)	24 (24)	20 (21)	27 (25)	18 (18)	2 (1)

(平成18年度データ)

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究より

自験患者について

担当医制である

単独・管理型	77.7%
協力型	45.3%

自験患者数

	0名	1～20名	21～50名	50名以上
単独・管理型	5.5%	56.7%	17.4%	20.4%
協力型	3.8%	30.0%	21.8%	44.8%

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究より

本学付属病院臨床研修プログラム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単独型 (A)	管理型施設											
複合型 (B)	管理型施設		協力型研修施設					管理型施設				
複合型 (C)	管理型施設		協力型研修施設									管理

初期研修(4~5月)
 大学間の臨床実習
 に格差があるため
 必須の研修

新歯科医師臨床研修の到達目標と到達度

基本習熟コース

	医療 面接	総合診療 計画	予防治療 基本技術	応急処置	高頻度 治療	医療管理 地域医療
研修歯科医	87.6 (86.9)	78.5 (81.3)	84.5 (83.2)	65.3 (69.8)	73.6 (76.7)	71.4 (74.1)
管理・単独型 施設	74.1	69.8	71.0	64.1	67.3	55.5
協力型施設	66.0	64.5	58.6	58.4	64.5	56.2

「到達している」+「ほぼ到達している」の占める割合 (平成18年度データ)

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究より

新歯科医師臨床研修の到達目標と到達度

基本習得コース

	救急処置	医療安全 感染予防	医療評価 管理	予防・治療 技術	医療管理	地域医療
研修歯科医	63.5 (61.8)	80.1 (78.3)	78.3 (80.1)	74.8 (74.1)	78.3 (77.0)	61.3 (63.5)
管理・単独型 施設	71.0	74.0	43.0	49.5	53.4	31.2
協力型施設	48.5	58.5	57.0	43.9	55.5	35.2

「到達している」+「ほぼ到達している」の占める割合

(平成18年度データ)

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究より

歯科医師としての資質の向上への貢献度

	貢献した	少しは貢献した	あまり貢献していない	貢献していない
研修歯科医	17.0% (39.4%)	52.8% (41.6%)	23.5% (12.9%)	6.8% (6.0%)
管理・単独型	50.5% (43.0%)	41.1% (44.1%)	6.3% (9.7%)	2.1% (3.2%)
協力型	46.9% (38.4%)	46.9% (45.5%)	4.1% (12.6%)	2.0% (3.5%)

(平成18年度データ)

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究より

適切な研修期間

	1年間	2年間	その他
研修歯科医	68.3% (70.6%)	25.8% (20.6%)	6.0% (8.8%)
管理・単独型 施設	27.4% (35.5%)	69.5% (61.3%)	3.1% (3.2%)
協力型施設	69.0% (59.0%)	28.6% (38.4%)	2.4% (2.6%)

(平成18年度データ)

受け入れ後の問題点 (協力型研修施設:複数回答)

研修歯科医の技術レベル	58.1%
事務手続きの煩雑さ	57.7%
患者との信頼関係	56.8%
指導に割かれる時間	56.1%
研修歯科医の知識レベル	41.3%
研修歯科医の意欲・態度	38.7%
診療所の収益	36.1%
受け入れ期間	33.5%
医療事故・過誤	30.3%
研修歯科医への給与	30.3%

アンケート調査

歯科医師臨床研修制度に関する 研修歯科医師の意識調査

～集計結果～

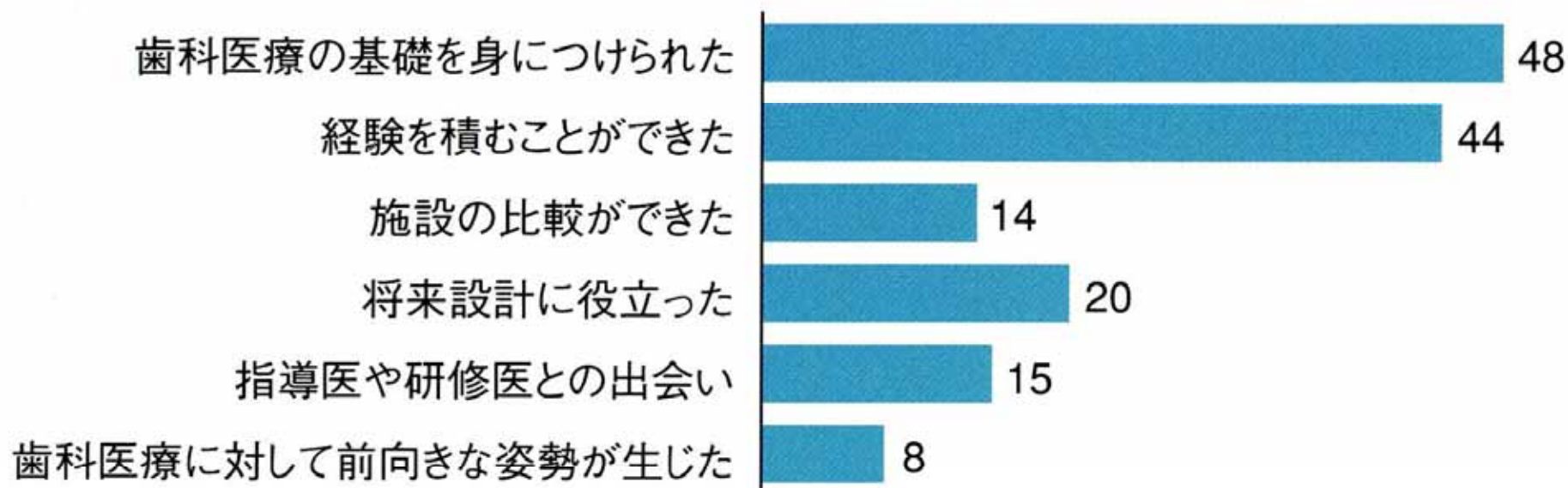
歯科医師臨床研修が必修化されてから1年が経過した。大規模な制度改革は、歯科医療界ばかりでなく社会からも大きな注目を集めているが、臨床研修を受けている研修歯科医師は臨床研修制度をどのように捉えているのだろうか。

Dental Tribuneは、研修歯科医師が臨床研修にどのような態度で臨み、制度をどのように評価しているのかを知るために、研修歯科医師を対象にアンケートを実施した。

回答者 341

8の2. 臨床研修が役に立った点, 立たなかった点

役に立った



役に立たなかった

学生時より大学院進学を希望するものにとっては1年間のロスに感じる	1
患者数がすくないため何もしない日があった	2
1年の研修では臨床現場に出ても使えない。研修自体あまり意味がない気がする。	1

8の3. 研修終了後の進路の変化

- 研修施設に入れてもらったおかげで能力を次の勤務先の院長が高く評価してくれて、同年代の2倍以上の待遇で声をかけてもらった。そして四月からの進路はその医院に。開業医の世界でやっていく自信がついた。感謝でいっぱいです
- 大学院希望から開業医勤務へ考え方が変わった
- 大病院の限界と役割を知り、地域のDCへの見方が変化した
- 麻酔科にいきたい
- 指導医の考え方に影響を受けた
- 大学で研修を受けたことで自信が付いた。当初、逃げの気持で大学に残ろうと思ったが、開業医へ挑戦する度胸がついた
- 研究よりも臨床家としてやっていきたい
- 開業医に就職したいと思っていたが、少し怖くなり、大学病院にしたいと思うようになった
- 研修をしていなかったら、就職先にも出会えていなかったから

臨床研修の課題

- 患者確保の工夫
- 卒前教育(臨床実習)の問題
 - 大学間の臨床教育の差
- 制度的な課題
 - 複合型臨床研修を充実させるために
 - 協力型研修施設の認可基準の見直し
 - 補助金の問題
- 教員評価(管理型施設)
- 研修修了判定基準(統一の基準)

臨床研修の工夫・改善等

- 1年間の臨床研修期間内で将来教育者・研究者を目指す者に、研究マインドを育む研修を盛り込めるか。(医と歯の研修期間の違い、量と質の問題)
- 研修修了後のキャリアパスが不明確である。
(生涯学習・研修体制の構築、専門医・研究者)
- 指導医の能力向上のためのプログラム開発
(協力型研修施設の質の確保)
- 高齢患者の増加への対応 (歯科医師は本当に過剰か?)
- 卒前・卒後教育の一貫教育のグランドデザイン

謝 辞

資料を提供して頂きました

東京医科歯科大学 俣木 志朗 教授(平成18・19年度厚生
労働科学特別研究事業 新歯科医師臨床研修制度の研修内
容・研修効果に関する調査研究 主任研究者) ならびに

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合診療歯
科学分野 河野 文昭 教授に心よりお礼を申し上げます